

浦神検潮所海面絶対高観測（2010年）
DETERMINATION OF GEOCENTRIC HEIGHT OF MEAN SEA LEVEL
AT THE URAGAMI TIDE STATION IN 2010

Summary -This observation has been carried out every year for the purpose of monitoring the sea level change. Geocentric height of the mean sea level above the WGS-84 ellipsoid was obtained at the Uragami tide station in the Kii Peninsula by combining the Satellite Laser Ranging and GPS techniques.

Key words : geocentric height - mean sea level - Satellite Laser Ranging - GPS

1. はじめに

海洋情報部では1980年から海洋測地網の整備を推進しており、海洋測地網の原点である本土基準点として位置づけられている下里水路観測所において、1982年以来人工衛星レーザー測距(SLR)観測を行うことによって、世界測地系に基づく正確な位置を求めている。

下里本土基準点において、地球重心に対する精密な高さが求められていることから、地球温暖化対策に資する目的で、至近の験潮所との間で水準測量を実施することにより、地球重心を基準とした絶対的な海面の高さを監視している。

本報告では、2010年8月に実施した浦神検潮所における海面絶対高観測について報告する。

2. 作業概要

下里水路観測所における本土基準点（下里H0標石）と浦神検潮所付属水準点標石（KBM）間において（図1）、GPSによる水準測量を行い、地球重心に基づく海面絶対高を測定した。

海面絶対高算出方法の概要は以下のとおり（図2）。

- (イ) SLR解析によって、下里H0標石の観測年における楕円体高を求める。
- (ロ) 下里H0標石を基準として、GPS観測結果と直接水準測量結果を合わせて解析することにより、KBMの楕円体高を求める。
- (ハ) KBMの楕円体高から海岸昇降検知センター潮位年報の値を用いて、平均水面の楕円体高を求める。

3. 観測結果

(1) SLR解析による下里H0標石の楕円体高の算出

GEODYN-IIによるラジオスI, IIの解析により求められたレーザー測距装置不動点の楕円体高 H_T から、観測年における下里H0標石の楕円体高 H_0' を求め、MGC2000に基づく下里H0標石（楕円体高97.536m）からの変化量 ΔH_0 を求めた。（ H_T と H_0' の楕円体高差は管理測量により求められた4.091mを使用。）

年	2003	2004	2005	2006
H_T (m)	101.627	101.617	101.596	101.608
H_0' (m)	97.536	97.526	97.505	97.517
ΔH_0 (m)	0.000	-0.010	-0.031	-0.019
年	2007	2008	2009	2010
H_T (m)	101.613	101.595	101.615	101.627
H_0' (m)	97.522	97.504	97.524	97.536
ΔH_0 (m)	-0.014	-0.032	-0.012	0.000

(2) KBM の楕円体高の算出

KBM 上での GPS 観測が困難であったため、近傍で観測条件を満たす場所に HBM (離心点 : KBM からの路線長は 117m) を設け GPS 観測を行った。HBM における GPS の測位結果と直接水準測量によって求めた HBM と KBM の高低差を用いて、KBM の楕円体高を導出した。

(イ) GPS 解析による HBM の楕円体高 (MGC2000) の測定

取得した GPS データを、下里 H0 標石 (MGC2000) を基準とした基線解析を行い、楕円体高 $H_{HBM}(MGC2000)$ を求めた。解析ソフトは Total Trimble Control(ver. 2.73)を用い、GPS の軌道要素は IGS 精密暦を使用した。

観測年/月	2003/1	2003/11	2005/3	2006/2	2007/2	2008/2
$H_{HBM}(MGC2000)$ (m)	41.598	41.597	41.601	41.588	41.593	41.589
2003 年からの差 (m)	-	+0.001	+0.003	-0.010	-0.005	-0.009
観測年/月	2008/6	2008/11	2009/3	2009/6	2010/8	
$H_{HBM}(MGC2000)$ (m)	41.595	41.592	41.617	41.612	41.605	
2003 年からの差 (m)	-0.003	-0.006	+0.019	+0.014	+0.007	

(ハ) 直接水準測量による KBM と HBM の高低差の測定

KBM、HBM (離心点) 間の水準測量を行い、高低差を求めた。

観測年/月	2003/1	2003/11	2005/3	2006/2	2007/2	2008/2
$\Delta_{KBM-HBM}$ (m)	1.094	1.095	1.093	1.093	1.094	1.093
観測年/月	2008/6	2008/11	2009/3	2009/6	2010/8	
$\Delta_{KBM-HBM}$ (m)	1.093	1.094	1.094	1.093	1.092	

以上より、観測年における KBM の楕円体高 H_{KBM} は以下のとおり。なお、2008 年と 2009 年の楕円体高については複数の観測を年単位で平均した。

$$H_{KBM} = H_{HBM}(MGC2000) + \Delta H_0 + \Delta_{KBM-HBM}$$

年	2003	2004	2005	2006
H_{KBM} (m)	42.692	42.682	42.663	42.662
2003年からの差 (m)	-	-0.010	-0.029	-0.030
年	2007	2008	2009	2010
H_{KBM} (m)	42.673	42.653	42.696	42.697
2003年からの差 (m)	-0.019	-0.039	+0.004	+0.005

(3) 海面絶対高の算出

KBM の楕円体高から平均水面の楕円体高を求めるために、以下の (イ) ~ (ロ) の海岸昇降検知センター潮位年報の値を用いた。

(イ) KBM~球分体 (SM) の高低差

測定年/月	2002/4	2005/1	2008/9	2010/1
$\Delta_{\text{KBM-SM}}$ (m)	0.387	0.387	0.387	0.388

(ロ) 潮位観測基準面 (気象庁 Datum Line) ~球分体 (SM)

$$\Delta_{\text{DL-SM}} = 4.720\text{m}$$

(ハ) 平均水面

年	2003	2004	2005	2006
平均水面 (m)	1.474	1.536	1.471	1.417
2003年からの差 (m)	-	+0.062	-0.003	-0.057
年	2007	2008	2009	2010
平均水面 (m)	1.495	1.502	1.501	1.503
2003年からの差 (m)	+0.021	+0.028	+0.027	+0.029

以上の結果より、平均水面の楕円体高 H_m (海面絶対高) は、以下のとおりに求まった。

$$H_m = H_{\text{KBM}} - \Delta_{\text{KBM-SM}} - \Delta_{\text{DL-SM}} + \text{平均水面}$$

年	2003	2004	2005	2006
H_m (m)	39.059	39.111	39.027	38.972
2003年からの差 (m)	-	+0.052	-0.032	-0.087
年	2007	2008	2009	2010
H_m (m)	39.061	39.048	39.090	39.092
2003年からの差 (m)	+0.002	-0.011	+0.031	+0.033

4. 成果

H_{KBM} , 平均水面, 海面絶対高の 2003 年からの変化を図 3 に示す。

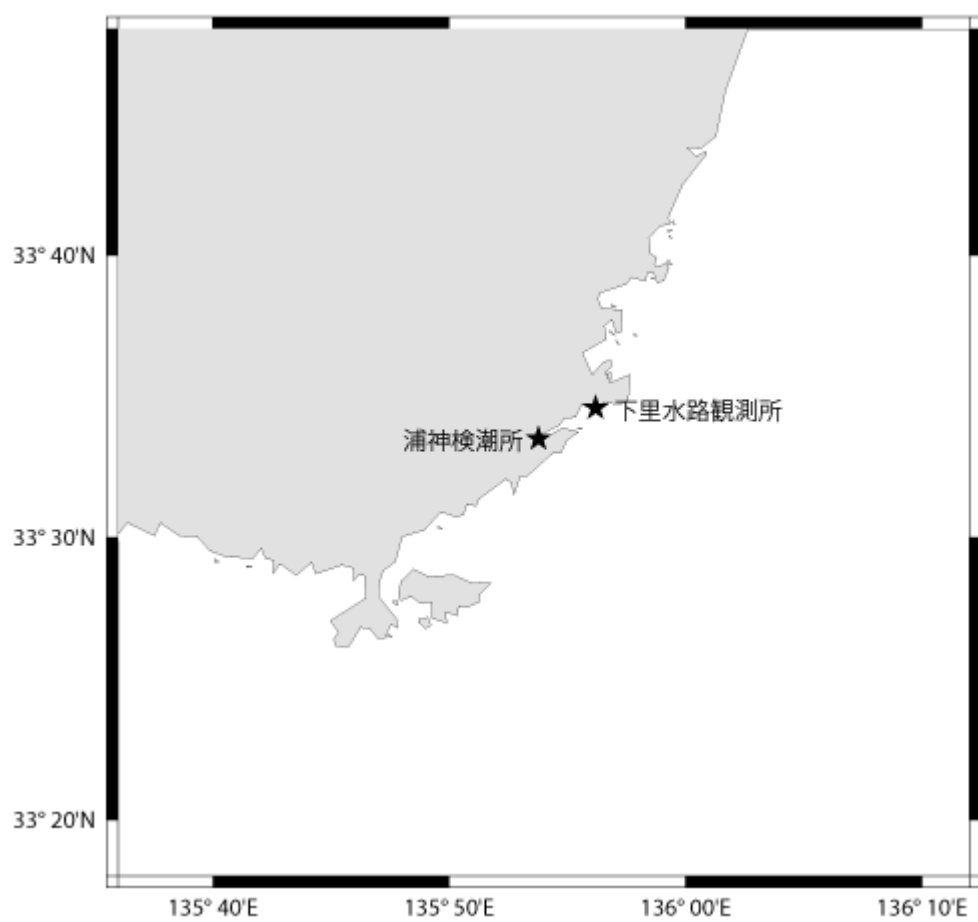
観測期間における H_{KBM} の変動は数 cm 程度に収まっており、平均水面と海面絶対高に有意な差を生じさせるような大きな地盤変動は起きていない。

海面絶対高について、現在までに得られた 8 年間の観測結果からは、本観測の目的である地球温暖化による海面高への影響を捉えることはできない。よって、今後も長期継続的に観測を行い、長期的な海面高の変動を捉えることが重要である。

参 考 文 献

海岸昇降検知センター潮位年報：<http://cais.gsi.go.jp/cmdc/center/siryou.html>

図 1



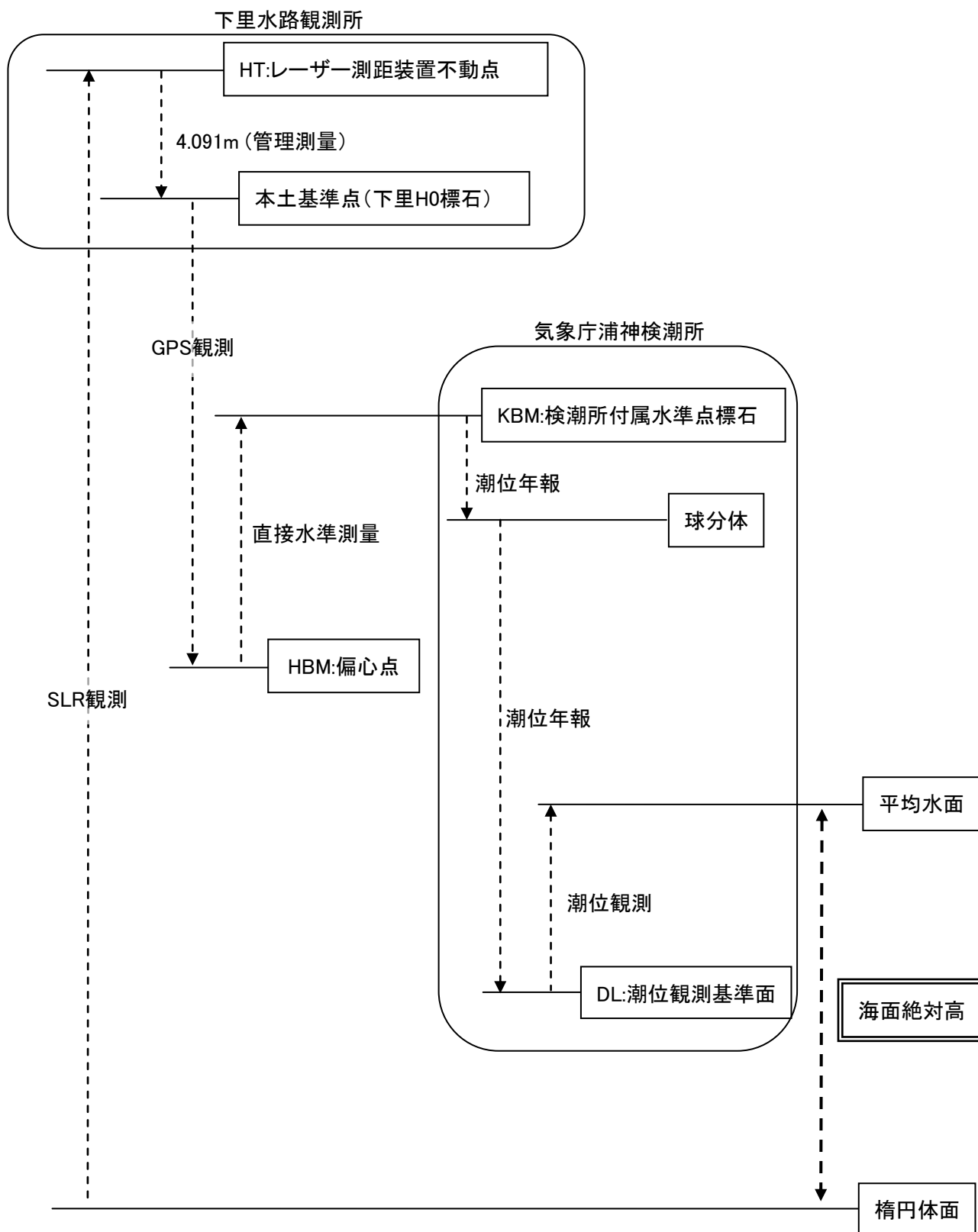


図 3

